DRC

「安心をつくる」評価試験への理解促進へ新たな試み

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、化粧品の安全性・有効性に関する評価試験もいわゆる「3密」になりやすい業種の1つといえる。そうした中、国内外で化粧品・医薬部外品、健康食品分野の安全性・有効性評価試験を一括受託するDRCは、一時的にヒト試験（臨床試験）の実施を中止していたが、社内ガイドラインを作成するなど試験実施における新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、6月からヒト試験の受託を本格的に再開している。また、現在建設中の新社屋（6階建て）は9月の完成を予定しており、高野憲一社長は「国際基準（ISO）の試験に対応できるよう、設備をさらに充実させる」と話す。

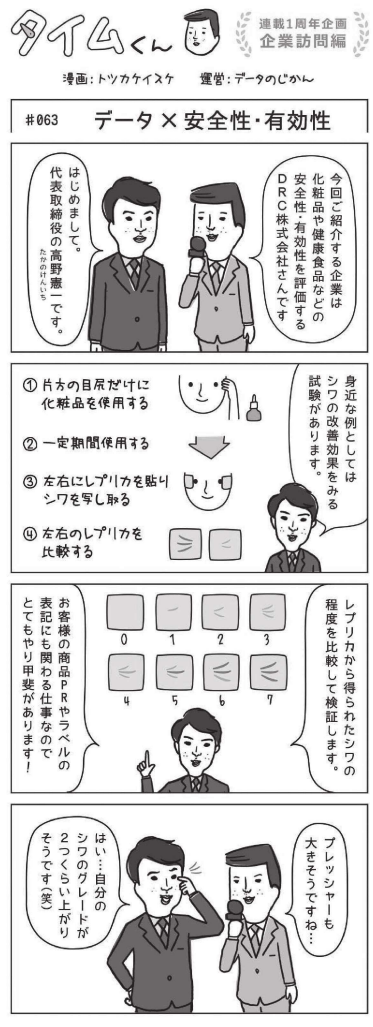
大阪・東京・札幌の国内3拠点の評価センターは、海外の評価機関が稼働していないことも影響し、3～4月はパッチテストやサンスクリーン剤（日やけ止め）のSPF・UVAPF試験の受託件数が増えたという。

「特にSPF・UVA PF試験を実施できる国内の評価機関は少ないので対応に追われた」（高野社長）

日やけ止めの評価試験では、新たに水温と水流を制御可能な浴槽設備を導入し、「耐水性」の紫外線防御効果データを取得できる体制が整う。

また同社は、臨床試験の質を向上する目的で、約3年前からモニターの募集・管理の専門部署として「被験者募集・管理部門」を設けた。

自社で抱えるアクティブなモニター登録者数は約5000人にのぼる。自社登録とすることでモニターとの直接のコンタクト頻度が増え、参加意識の高いモニターを厳選できるようになった。さらに、新たな試みとして、Instagramで自社の紹介やモニター募集の広告を掲出し、登録者数も順調に増えているという。高野社長は、SNSの利用やHPのリニューアルを進めていることに触れ、こう話した。

「当社が評価試験を通じて『世の中に安全を生み出す』ための仕事をしている企業であることを、モニターの母集団となる一般の生活者の皆さんに広くお伝えし、評価試験への理解を深めていただけるよう働きかけていきたい。SNSへの広告も、単に募集するというより、啓蒙の意味合いが強い。モニター候補者の評価試験への理解が深まることで、当社を信頼していただき、試験に参加いただく際の意識が高まり、試験の質の向上につながっていくと考えている」

その第1弾として、評価試験会社の主な業務内容を4コマ漫画で紹介したコンテンツを、5月よりHPで公開している。